年　組　名前

道新でワークシート

将棋界 4強時代

渡辺明 三冠

豊島将之 竜王

永瀬拓矢 二冠

藤井聡太 二冠

将棋の第61期王位戦７番勝負（北海道新聞社主催、伊藤園協賛）で４連勝し、最年少二冠となった藤井聡太新王位(18)。最年少の14歳２カ月でプロ入り後、歴代１位となる29連勝をはじめ、数々の記録を打ち立ててきた。二冠達成で、渡辺明三冠(36)＝名人、棋王、王将＝に次ぐタイトル保持者となり、一気にトップ棋士に躍り出た。「藤井時代」の幕開けとなるか。

２０１８年７月、無冠の28歳だった豊島将之竜王(30)が棋聖を獲得し、将棋界は八大タイトルを８人で分け合う群雄割拠の時代に入った。羽生善治九段(49)ら、１９７０年前後に生まれた「羽生世代」が40代後半になり、若手が台頭したため。羽生九段はこの年の12月に竜王を奪われ、27年ぶりの無冠となった。

やがて、渡辺三冠、永瀬拓矢二冠(27)＝叡王、王座＝、豊島竜王の３人にタイトルが集まるようになる。渡辺三冠は今年８月15日、豊島竜王から名人を奪取。永瀬二冠は現在、第５期叡王戦で豊島竜王の挑戦を受けている最中だ。

今夏、そこに割って入ったのが藤井二冠だった。緊急事態宣言の解除で６月から対局が本格的に再開すると、過密日程の中でも６月中に棋聖戦と王位戦の挑戦を決めた。７月には史上最年少の17歳11カ月で初タイトルとなる棋聖を獲得。勢いに乗って王位も手にし、わずか1カ月余りで〝４強〟の一角に入った形だ。

日本将棋連盟常務理事の井上慶太九段は「今は渡辺三冠、永瀬二冠、豊島竜王、藤井二冠の４人が一つ抜け出た状況。戦国時代から、誰かが〝天下統一〟に向かうかどうか。まだまだせめぎ合いは続くのではないか」と見る。

ただ、ベテラン勢も健在だ。豊島竜王への挑戦権を争う第33期竜王戦挑戦者決定３番勝負は、羽生九段と丸山忠久九段(49)による「羽生世代」同士の戦い。永瀬王座に挑戦する第68期王座戦では、久保利明九段(44)が渡辺三冠を破って挑戦者に名乗りを上げている。40代以上のベテランが４強の牙城を崩すかどうかが焦点になる。

藤井に勢い ベテランも健在

今回、藤井二冠は羽生九段が持つ二冠獲得の最年少記録を追い抜いた。羽生九段は、１９９２年に二冠になった後、他のタイトルも次々に獲得し、約４年後の96年には当時の七大タイトルを独占している。

藤井二冠も今後、さらなるタイトル獲得に弾みをつけるか。タイトル挑戦に最も近いのは第70期王将戦。前期はあと１勝というところで挑戦権を逃したが、リーグに残留している。「最年少とか高校生とかを考えなくても、普通に強い」と棋士間の評価は極めて高いだけに、トップ棋士としての今後に目が離せない。

２０２０年８月２２日（土）　朝刊　全道遅版　社会　30Ｐ（記事は再編集しています）

①見出しにある「４強」の中で、最も若い人は誰ですか。

②この記事に書かれている事実を、ア～エから一つ選びなさい。

ア　渡辺三冠は今年の8月に名人になった。

イ　豊島竜王は二つのタイトルをもっている。

ウ　藤井二冠は今後もタイトルを獲得する。

エ　羽生九段は昨年２７年ぶりの無冠になった。